



アルバム単位で見た伊藤家絵葉書資料の概要について

(新潟大学人文学部GP授業の成果、卒論より)

新潟大学人文学部卒業生 佐藤 将太

アルバム 資料番号001-1

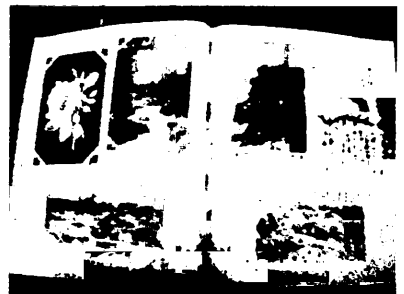
計196通収録。エンジ色の下地にエンボス加工された花と蝶の表紙で、片側2通、見開きで4通の絵葉書を収納できる。年代は1909年が107通と最も多く、空白を挟み1912年のものが54通。ある程度同じ時期に届いたものがまとめて保存されているがランダムに並べられている。受信者は六代目伊藤文吉（謙次郎）の妻である真砂の葉書が多く126通となっている。送信者では、謙次郎の弟で五代目文吉の五男にあたる伊藤成治（東京に分家）が最多で64通、次に村山亀一郎（謙次郎の妹テイの夫）の14通、斎藤八代重（謙次郎の妹、斎藤庫四郎へ嫁す）の8通、のちの七代目文吉である伊藤淳夫の6通と続く。受信者と送信者を関連付けてみると、「受信者：真砂——送信者：成治」が最も多く61通である。次いで「真砂——亀一郎」が8通、「真砂——淳夫」が6通である。被写体では、人物の写ったものが計73通、そのうち美人絵葉書は31通となっている。何らかの建物や風景が被写体となっているものは32通あったが、「名所」として確認できる絵葉書は9通（社寺・仏閣絵葉書2通）である。また写真絵葉書が65通であるのに対して、絵画絵葉書が83通と多く含まれている。

アルバム 資料番号001-2

計235通収録。厚手の表紙でページ数も多く、1ページ内には絵葉書が縦に2通、横に1通入る。大半の絵葉書が正しい上下方向に保存され、同系統の絵画絵葉書などは同ページに保存されている。このアルバムは少々特殊で、前半に実通便絵葉書が、後半に未使用絵葉書が保存されていた。表書きのあるものが115通、ないものが120通であった。表書きのあるものについては、1909年と1912年の絵葉書が中心である（それぞれ41通、29通）。前半に1912年のもの、後半に1909年のものが片寄って配置されているのが特徴だ。受信者は真砂が最多（85通）で、文吉と真砂の連名で送られてきたものが13通と多かった。送信者は成治が39通、亀一郎・八代重が11通。受信者と送信者との関連では、「真砂——成治」の31通が最も多く、以下は「真砂——八代重」の9通、「真砂——亀一郎」の7通となる。内容は絵画・その他絵葉書に分類されるもの（動物の絵などの印刷）が多く、美人絵葉書や風景絵葉書も含まれている。また後半の表書きのない絵葉書は、半数の60通が美人絵葉書で残りも、大半が人物を被写体とする絵葉書であった。

アルバム 資料番号007-1

計201通収録で、保存された絵葉書は1907年から1908年にかけてのものが多く（それぞれ64通、96通）。1908年は年賀状も多く保存されている。このアルバムは前半が1907年、後半が1908年と時系列順に整理されている。間を置いて挟み込まれる1912年の葉書などは、アルバムの編纂者が後から挿入した可能性があり、作成ののち数年の間は閲覧行為がなされていたと考えることができる。これは他のアルバムでも同様である。受信者はこれまでのアルバムと同じく、真砂が最多である（126通）。送信者も、成治（64通）、亀一郎（14通）、八代重（6通）となっている。受信者・送信者をみると「真砂——成治」40通、「真砂——亀一郎」28通、「真砂——八代重」10通となる。また成治が文吉と真砂とを連名にして宛てた葉書が21通みられた。内容は美人（人物）絵葉書がメインである。名所・風景絵葉書もみられるが、アルバム各所に点在している。その他絵葉書のうち、1908年正月の年賀状を数ページにわたり見開きで揃えて保存している様子もみられる。写真・絵画の内訳では、写真絵葉書の68通に対し絵画絵葉書が129通保存されている。



NC-C-001-2-DSCN0249

アルバム 資料番号114-1

計104通収録。厚手の表紙であるがページは厚手の割りに弱い。見開きで4通の絵葉書を保存、空欄は見られなかった。年代は、ほぼすべての絵葉書が1907年であった。消印の日付でみると、これらの資料が007-1のものより少し前の時系列に位置していることがわかる。受信者は変わらず真砂が51通と多いが、同時に文吉と真砂連名のものが47通と多く保存されている。送信者で多いのは成治32通、亀一郎13通、八代重8通。文吉と真砂の連名に宛てて成治が送った葉書が18通と最も多く、以下「真砂——成治」の11通、「真砂——亀一郎」の10通、「真砂——八代重」の8通となる。特筆事項として名所絵葉書や社寺・仏閣絵葉書には「記念スタンプ」を押印したものが多くみられた。



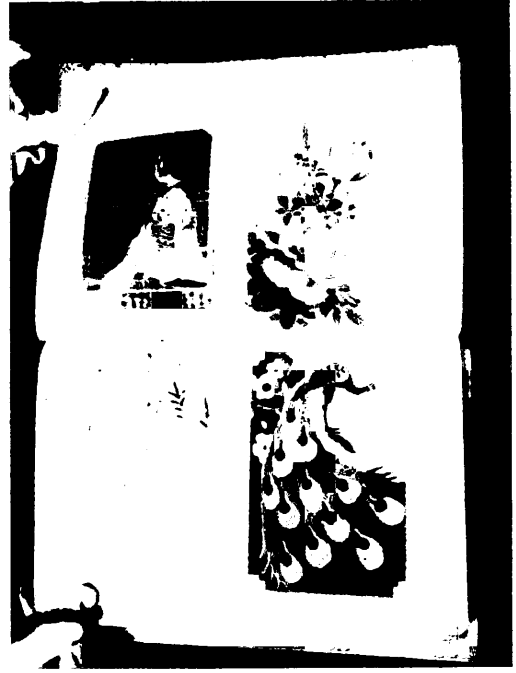
NC-C-114-1-DSCN0314

アルバム 資料番号114-2

計145通収録。矢の装飾に「葉書帖」[POSTCARTEN ALBUM]と記された表紙で、見開きで4通の絵葉書が収録されている。1905年、1906年の絵葉書が多く保存されているアルバムである。受信者の大半はこれまでと変わらず真砂であるが、このアルバム中の真砂宛の絵葉書のなかには、新潟の伊藤家の住所に宛てたもののほかに、東京の成治の住所で真砂宛に送られた葉書、同地区の大学病院の住所に送られている葉書が多く含まれている。送信者別では八代重19通、成治16通、亀一郎12通のほか、田中正雄（五代目文吉長女ルイの夫）が12通、伊藤家を出て亀一郎の嫁となったテイが7通、成治の妻である俊子が6通、主に真砂に宛てた絵葉書を書いている。受信者と送信者の関係別では「真砂——八代重」の18通、「文吉・真砂（連名）——成治」の11通、「真砂——亀一郎」の10通が、多くのやりとりを確認できる組み合わせである。内容面での特徴は、花鳥絵葉書の比率がアルバムの中で最も多いということである。また絵画絵葉書の枚数も、145通中103通と多い。またこのアルバムには、次の114-3のアルバムが挟まれた状態で保管されていた。

アルバム 資料番号114-3

計9通収録。1ページに1通の葉書を収録する形式で、ページそのものに絵葉書を撮取るような装飾がなされているのが特徴である。表書きがないため年代の特定はできない。内容は主に軍艦や看護隊の写真がフレームに印刷された戦没記念の絵葉書だが、アルバムの前半部分に数通、間があいた状態でまた数通となっており、ほとんどは空白である。



NC-C-114-2-DSCN0097

アルバム 資料番号115-1

計66通収録。厚紙に穴を開け、紐を通して括った装丁である。すべて年代は不明である。全アルバム中唯一、プロマイドを含むコレクションアルバムであり、被写体は海外の俳優・女優である。またアルバムにただ挟み込まれていたプロマイドや絵葉書もみられた。

アルバム 資料番号115-2

計100通収録。名所絵葉書、および社寺・仏閣絵葉書が意図的に蒐集されたアルバムである。官島・須磨寺・三十三間堂・清水寺・伊勢・名古屋・箱根・鎌倉・江ノ島と実に様々な地域の絵葉書が全体の8割を占める。すべて年代は不明であるが、1895年に、謙次郎と真砂が70日間の京都・奈良・伊勢を巡る新婚旅行に出掛けたという事実があり、それが絵葉書の地域と一致することから、道中に入手・保存された絵葉書群である可能性がある。

アルバム 資料番号115-3

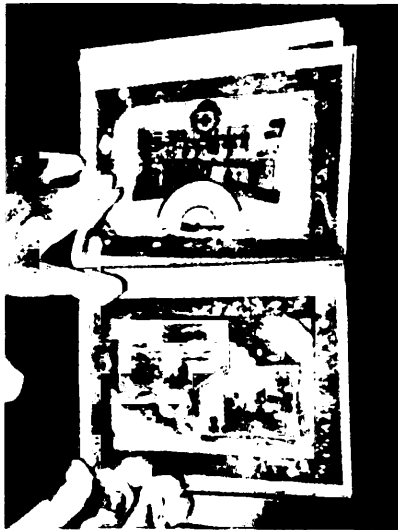
計28通収録。後半のほとんどは空欄である。すべて年代は不明。動物や人物の絵画絵葉書が中心となっている。前半に動物のポストカード、次いで和装・洋装が織り交じった人物の絵葉書群が保存されている。このアルバムに限らず、絵の描き手が同一らしいものは丁寧にまとめて保存されている。同シリーズの作品をまとめることで、物語を形成している見開きがみられる。アルバム編纂者の遊び心が見て取れるようである。

「アルバム」という単位

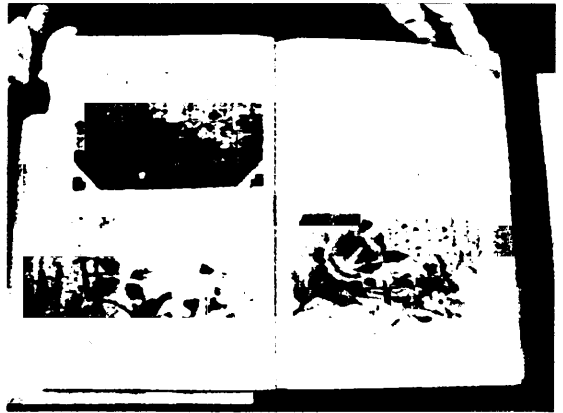
絵葉書を冊子にまとめ、編集するという行為が発生するのが「アルバム」という単位である。そこには編集者の意図が見え隠れする。例えば美人絵葉書や俳優プロマイドの蒐集という行為を通して美男美女を所有するというコレクションの欲望が伊藤家においても顕現していた。通常、アルバムに保存する際には、葉書を届いた順に表紙の側から入れていくため、一冊のアルバムには時間の流れが残る。しかし、伊藤家のアルバムには、前後の絵葉書の年代に差があったり、逆になった箇所が多く見られる。これは編集者（真砂）がメディアとしての葉書の使用法に基づいて保存（送受信の時系列を描え書込みの内容を整理）したのではなく、絵葉書の絵柄を関連付けることを重視してアルバム化したと考えられる。年賀

状のように、他のアルバムの中にも意図的に編集したとみられる箇所が確認できる。アルバムの再読を意識し絵葉書を美麗な状態で保管しようとする、真砂の几帳面な性格がうかがえる。全体を通じて、1910年～1911年の絵葉書の量が少なかったが、北方文化博物館には今回扱ったもの以外にも未整理の絵葉書アルバムが多く残されており、それらの中にこの空白を埋める絵葉書群が保存されている可能性は大きい。また、今回分析を行ったアルバムには、先に述べたように成治・龜一郎・八代重などの近い人物からの絵葉書が多く保存されていたが、たとえば今回のものとは別の送信者から送られた絵葉書をまとめ、アルバムとして保存しているということも考えられるであろう。

(文責 石井仁志)



NC-C-114-3-D6CN0035



NC-C-114-2-D6CN0116

歴史年表

※新潟市ホームページ歴史年表より

西暦	和暦	新潟市の主なできごと	日本の主なできごと
1924	大正十三年	新潟市の伊藤家の所有地が一三四六町歩(約1-0000)に減額(1)	
1914	大正三年	沼津町と合併する。市内部の常設の藩邸を真砂が建築。	
1912	明治四四年	二代目市役所庁舎が完成する。	
1909	明治四二年	二代目市役所庁舎が完成する。	
1908	明治四一年	新潟市で二度の大火(三月、九月)、初代高代藩が消失する。	露露事件(明治四一)
1907	明治四〇	佐佐木汽船会社が新潟—ワウオーストク航路を開航する。	ポリアス条約(明治三八)
1899	明治三二	新潟市で日本石油が操業による出油に成功。新潟市が金沢県を併呑する。	日露戦争(明治三七)
1898	明治三二	火力発電の開始にちって、新潟で初めて電灯がともる。	日英同盟(明治三五)
1897	明治三〇	北越鉄道(新潟線)の沼津—ノ木声(三条市)間が開通する。(一九〇四年、新潟県に延伸)	下関条約(明治二八)
1896	明治二九	操田切れ、木津切れと呼ばれる大洪水が起こり、藩領全域が被害を受ける。	日清戦争(明治二七)
1895	明治二八	日本石油会社が付島新造船工所を設立する。	足尾銅山毒害事件(明治二四)
1889	明治二二	市制・町村制が施行され、現市域に二市(新潟、五町)沼津・新潟・白根・亀田・小室戸、一一八村が設置される。	大日本帝國憲法(明治二二)
1886	明治十九	初代高代藩(本藩、長さが約700m)が完成する。	ノルマントン号事件(明治一六)
1883	明治十六	県立理事堂(現在の県政記念館)が建てられる。	内閣制度発足(明治一八)
1881	明治十四	西區區に新潟区役所、後の初代新潟市役所庁舎が落成する。	西南戦争(明治一〇)
1880	明治十三	新潟市で町の半分が焼ける大火。	樺太千島交渉条約(明治八)
1875	明治八	阿賀野川に横置橋(長さ約310m)が架けられる。	奥羽東線(明治四)
1874	明治七	第四國立銀行開業。新潟川汽船会社が新潟—長岡に蒸気船を運航する。	樺太千島交渉条約(明治八)
1873	明治六	新潟藩(後の白山公園)が開園する。	樺太千島交渉条約(明治八)
1868	明治元	新政府が新潟を藩領。	明治維新(明治元)



NC-C-114-1-034b2
歌川豊斎筆浮世絵(2枚1組)



NC-C-114-1-033b2
歌川豊斎筆浮世絵(2枚1組)



NC-C-114-1-074b 富山懸凱旋 祝賀記念



NC-C-007-1-193b
澤村宗十郎の扮装 梶浦の妻富江



NC-C-001-1-007b 水着の女性たち



NC-C-007-1-077b 鏡もち



NC-C-001-1-110b
I am waiting to hear from you



NC-C-001-1-036b 踊る男女



NC-C-007-1-060b 豚とクローバー

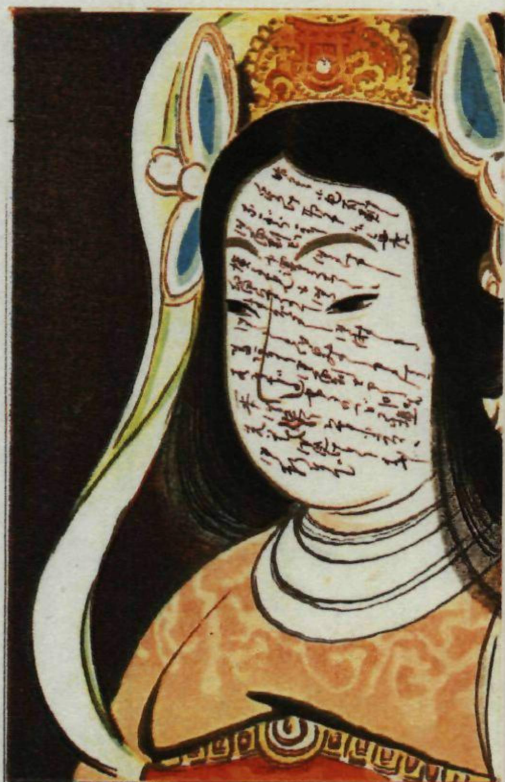


NC-C-114-3-01b 戦没紀念 篤志看護婦人會總裁閑院官紀智恵子殿下



NC-C-114-2-062b

三越具服店 時好繪葉書



NC-C-114-1-085b

神女



NC-C-001-2-161b

竹久夢二 銀杏の木に寄りかかる女



寫實士博中田授教學大國帝

明治十四年六月八日午後四時前東京市降電
 大電實高博士田中教授大學帝國
 念特シテ皇皇ノ秋育考紀
 念特シテ皇皇ノ秋育考紀

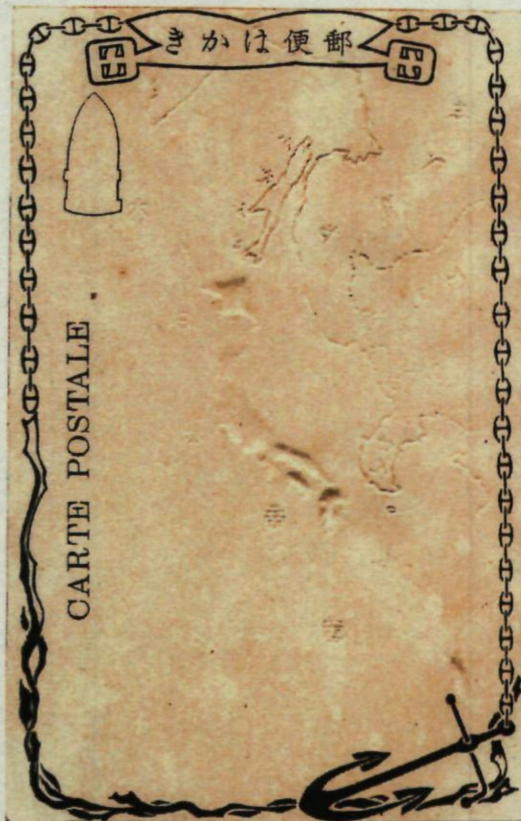
NC-C-113-1-014b

東京市降電記念・帝国大学教授田中博士實高電断面



NC-C-113-1-014a

東京市降電記念・帝国大学教授田中博士實高電断面



NC-C-114-3-03a

大日本帝国



NC-C-114-3-03b

大日本帝国